

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.42012年11月3日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com**本当に学区拡大してよいのか(2)****神戸市の中学生100人が進学できなくなる?**

県教委の学区拡大方針によれば、神戸市内3学区と淡路学区が統合される予定となっています。この統合によって淡路島北部を中心に100名近い中学生が神戸市内の高校を受検するのではないかと予想があります。もし、現実のものとなった場合にはどのような問題が生じるのでしょうか。

神戸市では100名近い生徒が高校に進学できなくなる

淡路島北部には島内の高校に進学するより交通費が安い、有名進学校があるなどの理由から神戸市内への進学を希望する一部の生徒や保護者がいることは事実です。

では、逆に神戸市内から淡路島内の高校を志望する生徒はいるのでしょうか。特別な事情がない限り交通費等を考えれば希望する生徒がいるとは考えられません。よって島内から成績上位者が神戸市内の高校を受検した場合には成績下位生徒は行き場を失うこととなります。今まで神戸市内の高校に合格できていた100名近い中学生が市内の高校に入学できなくなるのです。彼らは、淡路島内の高校か私学に進学するしかありません。いずれを選択した場合にも大きな精神的、経済的負担を強いられることは間違いありません。

成績下位生徒の多くは経済的にも社会的にも困難を抱えている場合が多々あります。様々な困難を抱えた生徒たちにさらなる困難と犠牲を強いる学区拡大を推進する県教委、そして自ら進んで賛成している神戸市や市教委の姿勢には驚きと怒りを禁じ得ません。

淡路市内の高校は統廃合の危機に

一方淡路島内、とりわけ淡路市内の高校が急激な生徒減にみまわれる可能性があります。そうなれば、市内2校体制の維持が困難となりいずれ高校統廃合が問題とならざるを得ません。人口減少地域での高校統廃合は地域社会の衰退にも直結しかねません。

学区拡大は、教育の問題にとどまるわけではありません。地域社会の未来にもかかわる重

大な問題です。県・地域教育委員会の判断だけでなく、地方自治体、地方議会の代表者はもとより何よりも地域住民の方々の意見を十分聞き判断すべき課題です。

通学費援助などでは何も問題は解決しない

県教委は、遠距離通学で高校進学を断念せざる得ない生徒が出ないように「通学費等、通学支援のあり方」を検討するとしています。なぜ、通学費援助まで行い遠距離通学というさらなる困難を生徒たちに強いる必要があるのでしょうか。

淡路島内では通学費支援が神戸市内への高校進学促進費 = 過疎化促進費となり市民の納得は得られないでしょう。しかも問題はそれだけにとどまらず、神戸市内への進学者が成績上位で家庭的にも恵まれた生徒が多いため「通学費援助」をめぐる市民間に対立感情を生み出しかねません。通学費等の援助で問題は何も解決しないばかりかいつその混乱を生み出しかねません。

学区拡大ではなく現行学区を基本に改善を

そもそも学区拡大は県民の要求からでたものではありません。また、現行学区に対して県民の大きな不満があるわけではありません。そのことは、県教委自身「約半世紀の間、継続して実施してきた」として定着していることを認めています。

学区拡大は、学校の個性化・特色化の推進、すなわち競争の教育と差別と選別の教育の強化、そして高校統廃合推進のために行っているものです。多くの県民の要求でもなければ生徒たちの願いとも無縁のものです。

高教組は、地域に根ざした学校づくりを進めるために高校通学区は将来的には地方では小学区制、都市部では総合選抜制が望ましいと考えています。この方針は、「地域の子は地域で育てる」という多くの県民の願いとも一致するものです。しかし、大方の県民の合意が得られるまでは、現行16学区を維持し、それぞれの学区が抱える問題を地域住民の合意に基づき解決すべきであると考えています。

高校通学区拡大反対「地域の会」全県交流集会

県内各地の「『学区拡大』ストップ! アピール署名をすすめる会」による活動報告

これからのとりくみについて

日時 : 2012年11月11日(日) 13:30 ~ 16:00

場所 : 神戸市勤労会館 308

主催 : 「学区拡大」ストップ! アピール署名をすすめる会

地域の方や保護者に積極的に案内してください